

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)

【公開番号】特開 2003-236822 (P2003-236822A)

【公開日】平成 15 年 8 月 26 日 (2003.8.26)

【出願番号】特願 2002-41466 (P2002-41466)

【国際特許分類第 7 版】

B 2 8 B 11/24

C 0 4 B 28/12

C 0 4 B 28/22

C 0 4 B 40/02

【F I】

B 2 8 B 11/00 A

C 0 4 B 28/12

C 0 4 B 28/22

C 0 4 B 40/02

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 10 月 18 日 (2004.10.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

また、図 7 に示すように、間隔を空けて立接された複数本の支柱 1 0 4 の上に板体 1 0 1 を設置することも考えられる。このように板体 1 0 1 を点で支持すれば、線支持した場合と同様に反応むらを回避することができる。しかし、板体 1 0 1 を安定的に支持することが困難であるため、板体 1 0 1 の変形や落下を引き起こすおそれがある他、板体 1 0 1 の設置に手間がかかる等の問題がある。

さらに、網状の、あるいは小孔を等間隔に設けたいわゆるパンチングメタルのような平板状の支持板を設置し、この支持板上に板体を載置した状態で養生を行うことも考えられる。このようにすれば、板体の上表面および下表面から炭酸ガスの浸透をほぼ均等に行わせることができる。また、板体全体を均一な支持力で支持することができるため、線支持の場合のような板体の自重による撓みの問題も解消できる。しかし、炭酸化反応によって板体が収縮する際に、板体の下表面と支持板との間の摩擦力によって、板体下表面の収縮が板体上表面の収縮より小さくなり、反りが発生してしまうおそれがある。